

定跡紹介

ツー・ナイト・ディフェンス

- 1. e 4 e 5
- 2. N f 3 N c 6
- 3. B c 4 N f 6 ! ?
- 4. N g 5 (図 2.1)

黒 3...Nf6 はツー・ナイト・ディフェンスといえます。16世紀後半からある古い戦法。ディフェンス（受け）というよりカウンター・アタック（反撃）と呼んだ方がぴったり。初心者が必ず覚えるべき戦法でしょう。

白の 4.Ng5 は攻め合いです。おだやかに行くなら 4.d3（ジオコ・ピアニッシモ）と守る手をおすすめします。4.d4 exd4 5.O-O !? Nxe4 6.Re1 d5 7.Bxd5 Qxd5 8.Nc3 のマックス・ランゲ・アタックも有名定跡です。

図 2.1



- 4. ... d 5

『f 2、f 7 が一番の弱点』

黒の弱点 f 7 をついた白 Ng5 に対し、黒は受けなしに見えますが d5 突きが好手。他に 4...Bc5 !?（ウィルクス・パーレ・カウンター・キャンビット）という奇襲戦法があります。それは後であらためてご紹介します。

- 5. e x d 5 N a 5

自然なのは 5...Nxd5 ですが、6.Nxf7 !?（フライ

ド・リバー・アタック）あるいは 6.d4 !?（ロツリ・アタック）というこわい攻めがあるので危険です。たとえば 6.Nxf7 !? Kxf7 7.Qh5+ Ke6 で形勢不明ですが、かなり研究していないと黒の方がつぶされるでしょう。

また、5...Nd4 !? とするウルベスタッド・カウンター・キャンビットという激しい変化もあります。以下、6.c3 b5 ?! 7.Bf1 ! Nxd5 8.Ne4 Qh4 9.Ng3 白ややよし。

- 6. B b 5 + c 6
- 7. d x c 6 b x c 6 (図 2.2)

図 2.2



黒 a5 ナイトが利いていてこのポーンが取れません。すでに 1 ポーン損ながら、黒はここから反撃します。

白の b5 ビショップと g5 ナイトは一見勇ましく見えますが、すべての駒を早く展開したいときに同じ駒を 2 回も動かしているのがむだなのです。結局白に追われて手損になります。

『序盤で同じ駒を何度もさわるな』

白 Be2 ともどるのは自然ですが 8.Qf3 !? はよくある変化です。以下、8...Rb8 ! 9.Bd3 ! (ポーンを取ると 9.Bxc6+? Nxc6 10.Qxc6+ Nd7 11.d4 Be7 で黒よし) 9...h6 互角です。

- 8. B e 2 h 6
- 9. N f 3 e 4
- 10. N e 5 Q c 7
- 11. d 4

11.f4 exf3! 12.Nxf3 O-O 互角。

11. ... e x d 3
 12. N x d 3 B d 6
 13. h 3 O-O
 14. N d 2 B f 5
 15. O-O R a d 8 (図 2.3)

図 2.3



これで互角の展開。

黒は確かに1ポーン・ダウン（損）ですが、ナイト・ビショップのすべてが展開していて、両方のルークとルークがつながっています。特に、Rad8のようにルークがすぐにセンターに回せるのが大きいので互角です。

これからは黒の攻め、白の受けで展開します。黒のねらいは Rfe8 や c5 とポーンを突く手です。

『ルークとルークをつなげろ』

以下、プロの実戦では、

16.Re1 (16.b3 Be5! 17.Nxe5 Qxe5 互角)
 16... Nd5 !? (16... Rfe8 や 16... c5 が普通)
 17.Bf1 c5
 18.Qf3 Bg6
 19.c4 Nf6
 20.Nb3 ? (20.b3 互角) Nxc4
 21.Ndxc5 Bxc5
 22.Bxc4 Bb4 !
 23.Qf4 Qxf4
 24.Bxf4 Bxe1
 25.Rxe1 (図 2.4)

ホルモフ対ゲラー1995年（ドロー）

・・・と黒優勢になりましたが、白もねばり、逆転し

て結局69手でドローになっています。興味があれば、そこまでチェス盤にならべてみてください。

図 2.4

